



西浦 克征さん (津 市)

人間どもの意識を変えなくては救われない。

そこで

①自分で出来ることは、まず実行。

- ②みんなで楽しく環境を考えるための手法を研鑽。
- ③身近な人や、特に子供たちを通して輪を拡大。
- ④理解者と協力して環境に関する社会制度(教育)を変える努力。



西田 勝さん (四日市市)

現在のような利潤優先の社会機構は、権利のみを主張し義務責任を疎かにする利己主義を増幅し人間性を希薄にする。基本となる『人づくり』が必要と考える。幼児から自然に触れる機会を多くもたせ、自然の大切さを体感させ、自然が与えてくれるエネルギーで、心身共に健康で優しく柔軟な思考力を兼ね備えた子供を育成することが望まれる。また、新エネルギーは自然の中に存在する風力、地熱、太陽光、潮力、波力等の活用が当然なされるべきであろう。



橋本 憲二さん (伊勢市)

自分の身の回りから、買い物時にレジ袋をもらい受けない。まず、家庭(家族)が地域が小さな波を大きい環に広げる。

「みえ環境学習セミナー修了の皆さん」・・・宜しければ、土・日曜日の買い物はレジ袋をもらいうけない・・・デーに。



藤野戸 紘紀さん (桑名市)

地球が生命にとって生きづらい環境になってきていることを実感し、これ以上の悪化を防ぐために行動する人を増やしていくこと、こども達全員を対象にした環境教育で、生命と自然環境を大切に作る人間を育てていくことだと思います。

持続可能な社会への条件は、“新しい豊かさ”の創造と“廃棄物ゼロ”社会の構築だと思います。



水谷 いずみさん (川越町)

私のできるどころからと言えば、主婦の立場からです。今の生活、衣食住の見直しから、簡素な暮らし方を考え、身近なところから実践していくことが早道かなと思います。

例えば、食について必要以上に買い物しない。素材を使い切る。食卓の上にはご馳走ではなく惣菜をならべる。ストック食品は目に付く所に置くなど、少しの工夫とそれを継続すること、また、家族を必ず巻きこむことが必須だと思います。



山野内 宗広さん (桑名市)

地産地消によるエネルギーの浪費を抑え、生態系の下位にある食物を多くとるようにする。

ゴミ問題では、

- ①再資源化 ②再利用 ③ゴミを

減らす 以上を三位一体で改革してゆく。身の回りの事から地域へ、更に自治体から国へ、そして世界へ発信する。

私達は、得意分野を生かし、環境保全の重要性を伝えてゆく。

環境を考えた Q & A

Q グリーン購入とか、グリーンコンシューマーとかいうけれどどんなことですか？

A グリーンはみんなが知っているように「みどり」環境によいイメージですね。そんな意味から、環境に良い商品を選んで買うことを「グリーン購入」と言うんだね。環境に良い商品を購入したり、使用するときに環境に配慮した行動がとれる人のことを「グリーンコンシューマー」と呼ばれています。

Q 環境に良い商品とは、どこで判断したら良いの～

A お店に行ってよ～く見てみると、環境に良いものの中のひとつに、「エコマーク」があるね。環境にきちんと配慮してある商品と認められたものにつけられています。ちょっと身近なところを見てみて、ノートやエンピツにもついているでしょう。その商品をつくって、販売して使い終わって捨てるまで、環境に良いか考えてある商品につけてあります。少々高いなあ～と思ってもみんなで購入していきたいですね。そうすれば価格も安くなることにつながったり、もっとも大切な地球の資源やエネルギーそして健康にもつながっていくんだね。でもでも・・・買う前には本当に必要かどうか？考えてね。三重県が認めたりサイクル製品にも、リサイクルマークがありますよ。



三重県認定
リサイクル製品